

東京五輪金メダリスト

寺山(宮本)恵美子さん 来校

《開校記念日行事》

生徒に本校の歴史と伝統の重みを認識させ、校風発揚に役立てる事を目標とした、開校記念日行事が、今年も五月十六日(水)に、美子さんと言ひ、昭和三十年に本校を卒業し、昭和三十一年に本校を卒業し、昭和三十一年の東京オリンピックで金メダルを獲得し、世界で「東洋の魔女」と称されたことは、すでに皆さんも御存知のことと思います。

当日、寺山さんは、さっそくしたパンタロン姿でお見えになり壇上に立つと全校生徒を前に、はっきりとした口調で、開口一番、「話というのは、よく聞いた方がよいと思います。生徒のさわめきを一喝され、記念講演が始まりました。まず故大松博文監督との出会いから、ソ連を破って



母学校校長室でくつろぐ寺山恵美子さん

金メダルを取るまで、「練習」という猛練習振りが披露された。一日平均三、四時間の睡眠時間であった。」

正選手になるまでの下積み時代の苦労話を、たくさん話され、引き入れられるように聞きました。

また「自分が何かやらなければならぬという目標があれば、必ず出来る。」と生徒を激励する傍ら、現在子を持つ親の立場から、「自分がオリンピックで金メダルを取ったのだから、お前たちにも出来ないことはない。だから、こうしなさい」ということは、一度も言った事はない。子供に自分の考えを無理に押しつけるのではなく、自分が、日々、実施している姿を見せることで何か感じとって

ればよい。という子育て論にいたっては、我々、教師が考えさせられる点多く、また生徒にとっても自分たちが父親、母親になった時の心がまえというものを話され、大先輩の話に生徒たちは、熱心に耳を傾けていました。

この講演については、翌日の五大新聞のほとんどの掲載され、御存知の方もおられると思いますが、当日の講演テープを同窓会事務局、および本校研究部に保存させてもらっています。

(下村幸司教諭記)

和商同窓会奨学金制度が施行されてから第一回卒業生が昨年三月元気に巣立つてきました。

先月、ご本人からお便りをいただきましたので掲載させていただきます。

◇◇◇

和商同窓会奨学金制度が施行されてから第一回卒業生が昨年三月元気に巣立つてきました。

先月、ご本人からお便りをいただきましたので掲載させていただきます。

◇◇◇

本会育英会初の受給生

角田宗都さんから便り

会の方々は、大変お世話になり、有難うございました。その上、卒業式には、ご好意で予期もしなかった表彰までして頂き、驚きと同時に嬉しさが胸一杯になりました。顧りみますと、自分なりに努力し、まじめに学業に取り組んだことの結果だと自負しております。

現在は、松下電工エレクトロニクス製品の修理・クレーム受付のサービス担当者として働かせて頂いております。サービスという仕事は、様々な業務の中でも、常時お客様の立場になり代わり相談や電話での受け答えをしなければなりませんので、緊張することが特に重要です。学生時代ののんびりとした、心の持ち方は、とてもサービス業務は動きません。この心の持ち方を身につけるまでには、多くの上司の方、諸先輩方の指導や、お力添えもあってようやく業務が板についてきたかと自分でも思っております。これからは、多くのお得意先様に、ご満足頂けるよう努めます。

まだまだ未熟な私ですが、この仕事を天職と思ひ、この賞を頂いたこと、また和商同窓生としての誇りと自信をもって、さらに努力していこうと思っております。

第三十九期卒業生
角田 宗都

前田信雄先生逝く

同窓会にも多大の貢献



平成二年八月三〇日夕刻、前田信雄先生ご逝去の報に接し一瞬息をのみました。学校はもとより同窓会役員一同一日も早いご快癒を願っておりましたのに……五十八才という壮年期をもって黄泉に旅立たれたと思つて残念でなりません。先生は旧和商四十四期生で、昭和三十三年から平成二年まで(うち四年間和歌山県教育委員会に出向)母校の教諭として勤務され、本校はもとより県下商業教育界の重要な位置におられた

クラブだよ



今回のクラブだよりは、女子ホッケー部とコンピュータ部にお願いたしました。両部とも創部の年代はちがいますが、和歌山県では他校にきまがけて誕生したクラブです。ここにも母校の「バイオニア・スピリット」を見ることが出来るのではないのでしょうか。

悲しみをのり越えて

ホッケー部

本校女子ホッケー部は、故草田清先生(平成一年四月死去)によって、和歌山国体開催の三年前(昭和四十三年)の四月十七日に誕生しました。

創部当初は、部員集めに苦労されたそうですが、早くもその年の七月、第十回全国高校総合体育大会に出場し、その後昭和五十三年まで、連続十一回もの出場を果たしました。その間、昭和四十六年に、第二十六回国民体育大会(和歌山国体)に出場し、昭和五十一年

県下のバイオニアとして 全国水準を目指して

(山本 光)

また、草田先生を陰で支えてこられた前田信雄先生までが、翌年、後を追うように亡くなられました。お二人の突然の御不幸は、ここ数年の部員不足・成績不振に、追い打ちをかけるような出来事でした。

しかし、悲しんではばかりはいられません。お世話になったお二人への、良き御供養になるよう、部員一同、全国大会への返り咲きを狙って、日々、練習を積んでおられます。

ただいま 人気上昇中

コンピュータ部

本校は商業高校としてコンピュータ教育にいち早く取り組んでまいりましたが、近年のコンピュータの普及に伴ってか、コンピュータ部の人数が増え、毎年一度始めのクラブの希望者を募るとき、いつも人気クラブの一つになっていきます。

活動は、主に学校の設備であるパソコン(現在一教室28台のPC9801が二教室ある。来年度さらに一教室45台導入予定)を利用して行っています。

主な活動は
①検定試験に合格するための学習
②文化祭の展示のためのプログラムなどの作品の制作



整備がすすむ情報処理教室

とコンピュータについての研究。

③部員の仲間づくりと相互親睦を深めること。等です。特にその中でも、一年生に対して二年生が指導して学習していくことが、過去の伝統から引き継がれていることほどよいことではないかと考えています。

本年度は第二回の全国のプロگرام競技会の県予選で履修単位が少ない関係で個人選のみに参加し、本校三年生の伊藤義雄君が県第一位になり、八月に全国大会に出場しました。初めての参加でありながら、また参加校の中で情報処理関係の学がほとんどを占めている中で、参加校中数少ない商業科にありながら、参加者全員の中で半ば以上の成績を得たことは評価できると思ひます。

平成三年度からコース制が導入され、情報処理に関するコースも設けられることになっていますが、これを機会にますますコンピュータ部を盛り上げていくことを期待しています。